

1 テーマ

自分でのばそう みんなでのばそう

～振り返りを生かし、自分で学習を選択する「ぐんぐんタイム」～

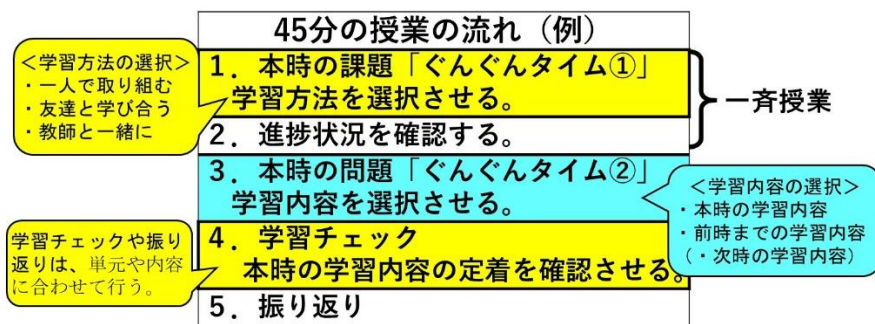
2 テーマ設定の理由

本校では、昨年度から「自分でのばそう みんなでのばそう」を主題に掲げ、児童一人一人が自分の課題や理解度に合わせて学習に取り組む場「ぐんぐんタイム」を取り入れて実践を行ってきた。ぐんぐんタイムでは、一人で計算カードを使った計算練習、友達と引き算カードゲーム、AIドリル、友達と課題解決の方法の話し合い、発展問題など、学習内容や学習方法を児童が自分で選択して学習を進めていた。どの学年の児童も自分の学習の理解度を判断し、自分に適した課題を自分で選択するようになった。アンケート結果にも、進んで学習するようになったと回答する児童が昨年度よりも多くなった。しかし、昨年度末に行った学力考査では、児童の学習内容の定着が十分でないことが分かった。要因の一つとして、進んで学習はしているものの振り返り（学習チェック、テスト等）が不十分だったために、「ぐんぐんタイム」での学びのフィードバックができず、結果として学習内容の定着に結び付かなかったと考えた。そこで、本年度は「ぐんぐんタイム」を中心にした学習を展開し、振り返りの仕方を工夫することで、児童の学習内容の定着と主体的に学習に向かう姿勢の伸長を図っていくこととする。

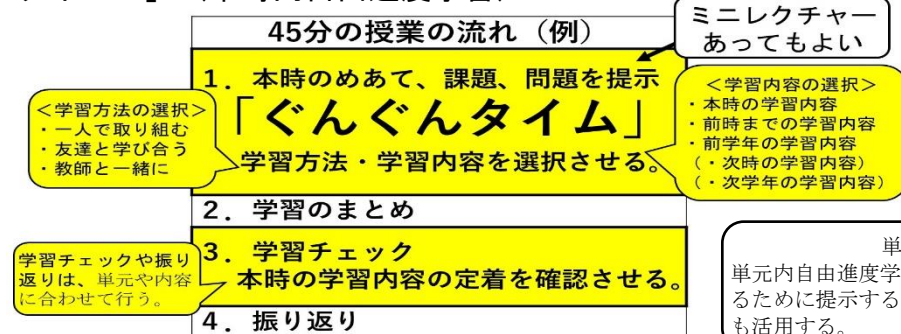
3 実践方法

児童の実態や単元に合わせて、様々な形態の「ぐんぐんタイム」を取り入れ、実践する。

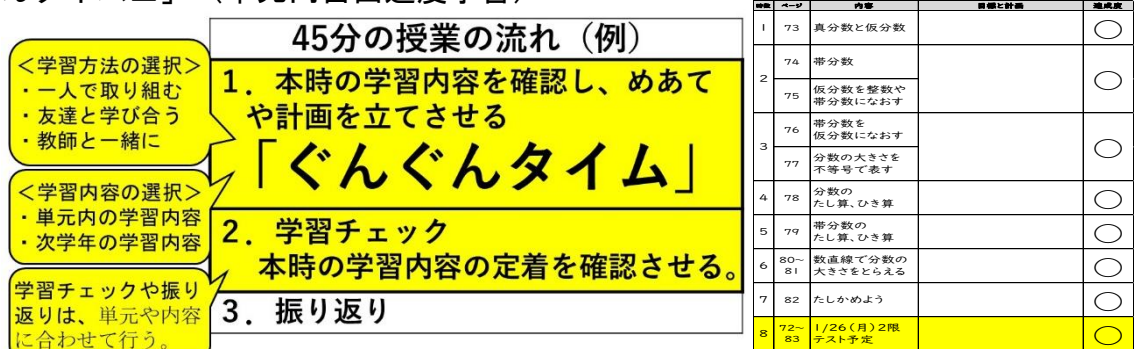
(1) 「ぐんぐんタイムⅠ」（学習課題方法選択学習）



(2) 「ぐんぐんタイムⅡ」（本時内自由進度学習）



(3) 「ぐんぐんタイムⅢ」（単元内自由進度学習）



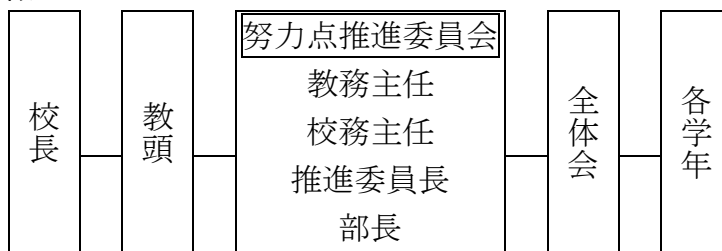
このように、児童の実態や単元に合わせて、「ぐんぐんタイム」を取り入れることで、児童の学習内容の定着を図ることができる。また、本実践を通して、文科省が目指す主体的に学びに向かう子へと近付いていくものとする。

本実践のテーマである「自分でのぼそう みんなでのぼそう」は、毎日の学校生活や学校行事など教育活動の中で、児童、職員の合言葉として学校全体で意識できるようにしていく。

4 推進方法

- (1) 推進委員会を通して、努力点推進の連絡・調整を行い、推進の基本方針、内容・方法を検討し、今後の推進方法や問題点の解決を図ったりする。
- (2) 全体会を通して、テーマや研究の推進方法の共通理解を図る。
- (3) 努力点授業は、学習指導案（本時分）を作成する。「ぐんぐんⅠ・Ⅱ」（PDF保存）ぐんぐんⅢの場合は、1単元のまとまりで計画する。実践する単元・単元目標・児童に提示する単元マップをまとめた様式を学習指導案として作成する。（PDF保存）
- (4) 努力点授業を行う時は、教務主任・推進委員に日程・内容等を伝え、事前検討会を設ける。
- (5) 5～9月に1名、10～12月に1名ずつ代表授業者を決定し、事前（後）検討会を設ける。（1～3年／4～6年でそれぞれ1人）
- (6) 9月の授業参観において、全学級が努力点授業を公開する。
- (7) 10月に学校だより努力点号、最終報告として3月に学年だよりを作成し、最終報告会をもつ。報告書の詳細については、後日提示する。

5 研究組織



6 努力点研究にかかわる日程

- ※ 代表授業は前期<5～9月>、後期<10～12月>の間にそれぞれ1回ずつ行う。
- ※ 授業実践の時期が集中しないように、丁寧に計画を行う。
- ※ 学年だより3月号では、児童の言葉や様子などを中心に載せる。

月	日	曜	内 容
3	10	木	・推進計画の検討 <推進委員会>
4	10	月	・推進計画の決定 <職員会議> (5月中旬に児童への実態調査(アンケート実施を検討))
4	28	木	・学年推進計画の提出締め切り <各学級授業実施の調整> ※ teachersフォルダ内に保存
9	21	火	※ 9月中に児童への実態調査
10	15	金	・ 学校だよりにて報告 ※ teachersフォルダ内に保存
1	27	金	・学校評価によるアンケート調査 ※ 2月上旬に児童への実態調査(教科書セット内にある学年末テスト)実施
2	13	月	・最終報告会 → 学年だよりにて報告 ※ teachersフォルダ内に保存
3	22	水	・R6年度 推進計画の検討 <推進委員会>